

## 『教師冥利』

## 教

職に就いて最初に勤務したのは、夜間定時制高校でした。自分にとって夜間定時制は未知なる所でした。当時は、日中働いて夜間に学ぶ生徒がほとんどで、日中働いていないのは、何らかの事情で家事などを手伝わなければならないか、また全日制を落ち1年だけ夜間定時制に通い次の年に全日制を受け直すという生徒が数名いるくらいでした。教師とは教科は勿論のこと、社会のことや生き方についても教える立場だと未熟な私は気負っていました。しかし、大学院を出たばかりの私には、週に一度、中学生の家庭教師をしたくらいで、実社会で働いた経験は全くなく、上京して一人暮らしをしていたとは言え、親の庇護のもと、毎月の仕送りで日々の暮らし向きには何の心配もなく過ごしました。そんな自分よりも、生徒の方が現実社会の厳しさを知っていることは、新米教師の私にも良く分かりました。授業の開始時間ぎりぎりに教室に駆け込んでくる生徒の手は油に塗れていました。准看護師の仕事を終え、消毒液の匂いをさせて登校する生徒もいました。大工見習いで作業着のまま登校する生徒もいました。そんな彼等から、私は多くのことを直接的にまた間接的に学びました。3・4年生には車の免許を持っている生徒もいました。今思えば、どのような経緯だったのか、校長先生の許可を得ていたのかも定かではありませんが、生徒達と乗用車を連ねて遠足に行ったことがありました。生徒達は職場の車を借り、私は自分の車を出しました。生徒が先導車で、私はその後をついて行き、更に私の車を守るようにして、生徒達の車が続きました。無事に目的地に着き、楽しい一時を過ごした帰り道でした。帰路、車を走らせてしばらくすると、後方の生徒の車がクラクションを鳴らしたのです。一体何事が起きたのかと通行車両に邪魔になら

ないように路肩に寄せて停車しました。後の車から降りてきた生徒が、私の車の後車輪がふらふらと揺れていると言うのです。言われてみるとハンドル操作に違和感がありました。自動車の整備工場で働いている生徒達が車輪を調べてくれると、しつかりとボルトがしまっていないことが判明。そのまま気が付かずには運転していれば、車輪が外れ大惨事になるところだったかも知れないと思うと、冷汗がどつと出る思いでした。この他にも様々なことで生徒達から救われ、有形無形で色々なことを教わったと今更ながら思うのです。

**現** 場の学校を離れてから18年経って、学校現場に分校の教頭として戻りました。ここでは地域の方々の方々の深い愛情に触れました。謹慎処分になった生徒達を登校させ、近くにある高齢者の方々の作業場で一緒に作業をさせて貰いました。おじいちゃん、おばあちゃん達が生徒を、我が孫のように可愛がって接してくれ、お説教にならないように諭してくれるのです。謹慎処分を受けた生徒達は、充分にいやされて謹慎を解かれました。

**定** 年退職は三部制定時制と通信制が併設された高校で迎えました。専門学校へ進学するための資金を貯めようと、日中スーパーマーケットで働き夜間通学していた生徒がいました。専門学校に入学が決まり、入学金を自分の貯金から払おうとしたら、親からせめて入学金の半分だけでも、親に出させてくれとお願いされたと言う話を、その生徒から聞きました。

**こ** れらのことは、ほんの一部の話に過ぎません。今思い返しても心が熱くなる話、胸が痛むこと、目頭の熱くなる思い等々、生徒達に教えられたことが山ほどあることに、今更ながら思い至るのです。